

12. 胆道閉鎖症術後患児における胆汁酸代謝の検討

(外科学第三) 多村幸之進, 木村幸三郎,
小柳 泰久, 青木 達哉, 伊藤 伸一

近年, 胆道閉鎖症はその手術成績および術後管理が向上し, 長期生存が得られるようになってきた。しかし術後も十分な胆汁排泄が得られず, 肝障害の進行する症例や, 黄疸の消失が得られたにもかかわらず種々の程度の肝障害を有するものも少なくない。

従来, 肝硬変症や閉塞性黄疸に対しその病態を把握する目的で, 胆汁酸代謝の検討がなされているが, 本症術後長期生存例の胆汁酸代謝を検討した報告は少なく, 特に糞便中の胆汁酸組成分析の報告はいまだみられない。今回我々は本症の術後患児の血清中および糞便中胆汁酸組成分析を詳細に検討し, その肝障害の病態について検討したので報告する。